

# 統一論題 「簿記の外延を考える」 座長解題

日本簿記学会 第40回全国大会  
2024年8月31日(土)  
神戸大学  
六甲台本館1階 102教室  
吉田 智也(中央大学)



## 準備委員会の「ご挨拶」より抜粋

- 記念となる本大会の統一論題のテーマを、「**簿記の外延を考える**」といたしました。
- **簿記に対するイメージはある程度安定的である一方で、簿記を取り巻く環境は変転を続けております。**
- **変化する環境の中で、「簿記が簿記であり続ける条件」とは何かを考え、「簿記のあり方について再確認すること」を企図しております。**



## 「外延」とは...(辞書的意味の確認)

- 論理学で、**概念が適用される事物の集合。**
- 例えば、惑星という概念の外延は水星・金星・地球・火星・木星・土星など。⇔内包。  
(『デジタル大辞泉』より)

→つまり、「簿記」という概念の外延は、  
複式簿記、単式簿記、商業簿記、工業簿記、銀行簿記、農業簿記、学校簿記、病院簿記、官庁簿記、etc. ということか？

→「簿記のあり方」・「簿記とは何か」



## 篠藤 涼子 先生(大阪経済大学)

### 家計簿に見る記帳内容の展開

- 「家政学」+「簿記」=「家計簿記」
- 学校教育における家計簿記の記帳範囲・目的は？
- 実際の「家計簿」から見えてくるものは？
- (人はなぜ帳簿を付けるのか？)



## 竹中 徹 先生(京都文教大学)

### 簿記教育の可能性

#### :複式簿記相対化の視点から

- 大学教育における“ミニマム”な簿記教育(内容・方法)とはどのようなものか？
- 複式簿記の「一般化モデル」とは？
- それをどのように拡張するのか？(特に目的？)
- (今後、何を教えていくことになるのか？)



## 板橋 雄大 先生(東京経済大学)

### ブロックチェーン時代の簿記システム

- 「BC技術」+「簿記」=？
- (入力・出力面から見た)帳簿記録の変化が、記録内容にどのような変化をもたらすか？
- 追加される(or削除される)情報の属性は何か？
- (帳簿・記録はどう変わり得るのか？)



## 小澤 康裕 先生(立教大学)

### デジタル時代の財務諸表監査と 会計記録

- 監査から「簿記」(帳簿記録)を考える
- テクノロジーの進展が財務諸表の作成プロセスにどのような影響を与えているか？
- 監査対象の変化は、記録対象(内容)をどのように変えるか？
- (今後も簿記(帳簿記録)は必要か？)



## 簿記とは何であり、何でありうるか

- 「複式簿記」だけにとらわれず、「簿記のようなもの」を含め、「簿記」について論じることで、簿記の本質・あり方について迫ることができるのではないか？
- 例えば、「簿記」のまわりに存在するであろう周辺領域の学問・技術も、簿記に取り込めるのではないか？そうすることで、簿記の研究領域・研究手法は拡張していく可能性を持つ
- 簿記の研究領域が広がれば、おのずと簿記教育の範囲も広がる(内容の取舍選択が起こる可能性もある)
- 結果的に「こんなものは簿記じゃない」というお叱りを会員からうけるかもしれないが、「これもまた簿記である」という着地点を探したい